

情報のリスク管理を重視した在宅勤務で マザーズ上場企業が多様な人材を活用!!

コロナ禍で在宅勤務を実施する企業が急増し、企業の方バナンス・リスク管理・コンプライアンス・セキュリティが問題になっている。そのような問題に取り組んでいるのがGRCS。そもそもGRCSはコロナ禍以前から「多様な人材を受け入れる」ため、率先して在宅勤務を推進してきたという。はたして、同社はどういうようにして在宅勤務を導入し、企業の成長エンジンとして活用したのだろうか。そのあたりの実感を含め、GRCSプラットフォームマーケティンググループの深井翠氏と管理部(情報システム担当)の丸山香氏に聞いた。

| |
|--|
| <p>ゲスト</p> <p>深井 翠 ふかい・みどり 株式会社GRCS GRCプラットフォーム部 マーケティンググループ</p> |
| <p>丸山 香 まるやま・かおる 株式会社GRCS 管理部 (情報システム担当)</p> |

複雑な外部環境リスクからDX化を通じて企業を守る

—— まずは御社の事業内容から伺いたいと思います。

深井翠・GRCS GRCプラットフォーム部マーケティンググループ 当社は「テクノロジーデザイン・デジタル」というビジョンのもと、複雑な外部環境リスクからガバナンスのDX化を通じて企業を守ることをミッシ

ョンとしています。当社の社名にある「GRCS」は、Gはガバナンス、Rはリスク、Cはコンプライアンス、Sはセキュリティという当社の事業領域を意味します。日本ではさまざまな

リスクに対して個別に対応しがちなのですが、それでは複合的なリスクに対応することはできません。そこで、当社では

2005年の設立以来、欧米における統合リスク管理の手法を取り入れながら外部環境リスク情報の一元化と可視化、そして

企業の状況に応じたソリューションの提供に注力しつづけています。

—— 顧客はどのような規模なのでしょうか。

深井 主な顧客は上場企業です。おかげさまで、当社も昨年11月に東証マザーズへの上場をはたすことができ、現在は約

130名の社員を抱えるまでになりました。

—— たんにサイバーセキュリティに関するソリューションを提供しているというわけではないのですか。

深井 冒頭に申し上げたように、企業が抱えるさまざまなリスクに対応しているのが当社の特色です。もちろん、サイバーセキュリティも企業が実施すべきリスク対策のひとつであるため、その支援も手掛けており、自社

開発製品だけでなく、他社製品をご紹介することもありますし、場合によってはエンジニアがお客様さまのもとに常駐して課題解決にあたることもあります。

—— そういった事業を推進する一方で、社内では多様な人材を受け入れてきたそうですね。

深井 はい、段階から子育て中の女性や地方在住者が働きやす



(上)部活動の制度があり、コロナ禍前はアウトドア活動なども積極的に行われていた。写真は富士山登頂の様子 (下)同社では毎年、社名やロゴを入れたポロシャツ/Tシャツを作成している。写真のTシャツは昨年のもので、社員が在宅勤務となるなか、同じものを着ることで一体感を醸成するために作成したという

い環境づくりにチャレンジしてきました。その根幹には「働く

意欲と能力がある人材を採用するために、場所にとらわれない働き方を推進したい」という社

長の思いがあります。実際、当社ではコロナ禍前からクラウドサービスを積極的に活用したり、フレックスタイトム制を導入したり

りすることで、社員一人ひとりが働きやすい仕組みを構築してきました。私自身、マーケティンググループで宣伝広告、広報などを担当していますが、育児

中ということもあって、基本的には在宅勤務を選択しています。

—— そういった仕組みが優秀な人材を獲得することにつながったのかも知れません。

深井 そういった側面はあると思います。実際、女性にかぎらず、地方在住の方も社員として存分に能力を発揮してくれています。

—— 在宅勤務が増えたとコミュニケーション不足などの問題が浮上するようになっていますが、そのあたりについてはどのように

対応しているのでしょうか。

深井 たしかに、対面によるコミュニケーションが減ると、ちょっとした雑談や気軽に相談したりする機会が失われてしまいがちです。そこで、当社ではバーチャルオフィスを開設したり、オンライン上で一緒にヨガをする機会を設けたり、オンライン勉強会を開催したりしながら、コミュニケーションの機会を増やすようにしています。もちろん、リアルでのコミュニケーションについても定期的に全員参加のキックオフイベントやミーティングの機会を設けています。

情報システム管理を刷新し在宅勤務の可能性を拡大

——在宅勤務を推進していくには、情報システム管理にも力を入れる必要がありますよね。

丸山香・GRCS管理部(情報システム担当) 以前は情報システム担当の専任を置かず数名が兼業という形で管理していたのですが、3年前に私が専任になりました。現在は私を含む3名のチームで社内情報システムを管理しています。

——情報システム管理の一元化で、どのようなことが変わりましたか。

丸山 いかにかセキュリティレベ

ルを維持しながら、多様な働き方を効率的に推進していくかというところに重きを置き、あらたな仕組みを策定していきました。たとえば、各人のPCにどのようなセキュリティ対策を施せばいいのか、といったことにも統一したルールを設けてハンドブックをつくり、そのルールが遵守されているかどうかを年に一度、チェックする仕組みを設けたりしていきました。また、社内のコンサルタントに協力してもらいながらISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証を取得したり、東証マザーズ上場にあたって外部監査に対応したりしたことで、全社的なセキュリティレベルの底上げもはかりました。

——丸山さんも深井さんと同じように在宅勤務を選択されているそうですね。

丸山 情報システムの担当者といえ、一般的に会社に出社するケースが多いと思いますし、実際、前職でもそうでした。ですが、当社では私を情報システム部門に配属したそのときから在宅勤務が可能な方法を一緒に考えて模索してくれました。その成果のひとつが「業務用のPCは社員がみずから選んで購入する」という制度です。それにとともに、PCの故障時に

についても社員自身にメーカーに問い合わせてもらうことになったので、情報システム部門としてはPCの管理やメンテナンスから解放され、つねに出社する必要がなくなったのです。また、サーバーに関しては以前からすべてクラウドサービスを活用していたので、在宅勤務でも十分に管理やメンテナンスに対応することができました。

——御社が展開している在宅勤務のシステムが農林水産業や製造業などの現場にも広がっている、さらに効率的な社会を実現できそうですね。

深井 現状、在宅勤務を導入できているのはITを中心としたサービス業にかぎられています。将来的にさらに技術革新がすすんでいけば、現場ありきの業種に関しても在宅勤務を導入できるようなものも生まれるかもしれません。当社としてもそういった可能性を積極的に広げていきたいと思っています。

——そうなるべくと、ますますセキュリティへの備えが重要になってきそうですね。

丸山 まさにその通りです。在宅勤務が一般化すればするほど、ますますセキュリティへの意識を高めていく必要があります。企業規模の大小を問わず、まずは在宅勤務を前提とした情報セ

キュリティ規程などのルールづくりや適切なセキュリティツールの導入をすすめてほしいですね。もちろん、実際にどのようなセキュリティツールが最適なのか、といった点についてはコンサルタントの意見に耳を傾けてみるのも一案でしょう。当社でもセキュリティのコンサルティングサービスを提供しているのですが、興味がある方はぜひチェックしてみてください。

——ところで、GRCSではセキュリティツールのひとつとして「HP Sure Click Enterprise」を活用しているそうですね。

深井 (株)ブロード(東京都千代田区)と5年ほど前から連携し、社内外での導入を推進しています。このシステムの「仮想パソコン上で危険性のあるファイルを開く」という仕組みはシンプルかつ画期的で、昨今、問題視されているランサムウェアなどの脅威を未然に防ぐことができるとあって好評です。

——自社製品だけでなく、そういった他社製品も活用することで、顧客の状況に応じたセキュリティソリューションを提案しているんですね。これからも企業の「GRCS」を守るためにさまざまな取り組みを推進しつけてください。

もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう



HP Sure Click Enterprise

おかげさまでBromiumはHP Sure Click Enterpriseに進化しました



エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。100%* 防衛し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は【BROAD Security Square】で… <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)



今までの「常識」は、
すでに「非常識」!